

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和5年 3月 1日

事業所名 児童発達支援 キッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		活動メニューで使う物だけフロアに出すようにして十分なスペースの確保に努めている。	
	2	職員の配置数は適切である	83%	17%	レクリエーション、外出やイベント等の時はスタッフを1対1等に配置するなどして安全を確保している。	今後も適宜スタッフの増員を継続し、さらに安心安全な体制を作っていきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%		スロープ、手すり等が適切に設置されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%		毎日の掃除と定期的な消毒作業や換気等を欠かさず、清潔な空間を維持している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	83%	17%	月1回の職員会議を主として個々の利用者様の現状や目標等を共有しながら進めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		保護者向け評価表の配布と実施にご協力いただき、結果をもとに業務改善に取り組んでいる。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		事業所として自己評価を行うと共に各評価表をホームページにて公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%		外部機関に書類チェックや業務の評価等のサポートを依頼し、指摘があった場合は即改善している。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	66%	34%	各スタッフに新人研修を実施し、その後は能力や特性等に応じて資格取得や人権擁護研修など各種研修参加の機会を確保している。	引き続き幅広く外部研修も取り入れて行きます。
適	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%		日々モニタリングシートを更新し、適宜会議を実施し、その後アセスメントシートを作成・更新、原案作成、再度会議の上、個別支援計画を作成・更新している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83%	17%	細かく項目の分かれた統一の書式のアセスメントシートを作成・更新している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%		利用者様一人ひとりの発達状態や家庭状況等に応じてガイドラインにおける各支援項目から内容を設定し、全スタッフが内容に沿った支援ができる環境になっている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%		定期的にスタッフで支援計画を共有し実施している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
切 な 支 援 の 提 供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	定期的にスタッフで共有し実施している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	83%	17%	活動内容が各一的にならないよう配慮しながら日々新しいメニュー追加変更しながら実施している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	83%	17%	基本的には集団活動をメインに行い、並行して自由時間で宿題・創作・遊びなどの個別活動を行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		日々の出勤時に引継ぎを行い情報共有することに加え、各自その日の予定を確認してから支援を開始するようにしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83%	17%	支援終了後に報告の時間を取り、記録に残すようにして全職員が情報共有できるようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		全職員からの報告や連携を元に適宜記録を作成し、支援等の改善に努めている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	83%	17%	モニタリングとアセスメントを随時行い、変更の必要性を見出し、その都度更新している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		該当の利用者様の状況に応じた適任者が毎回参加するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%		必要に応じて関係機関と連携し情報交換等しながら支援している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%		協力医療機関や役所、各保育所等と連携しながら常に適切な支援を検討しながら実施している。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%		主治医や協力医療機関といつでも連絡が取れる体制を作り、日々の支援にあたっている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%		引継ぎの際には各事業所の担当者同士で連携し、情報交換やケアの説明等を受けるようにしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%		移行する場合は必ず連携し、情報共有や相互理解に努めている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%		平野区連絡会にて定期的に話し合い、連携している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		100%		今後もさまざまな子供様との交流の機会を増やせるよう検討していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	83%	17%	毎回責任者が地域の取りまとめ等の運営もしながら参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		常に親御様とのコミュニケーションを欠かさないように留意し、情報交換や意見交換を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	83%	17%	必要な方には自宅訪問して時間を取るなどしてペアレント・トレーニング等の支援をしている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		利用契約の際に全て書類と共に説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%		ガイドラインに沿った支援内容で支援計画を作成の上、毎回更新する際に同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		必要な方には随時自宅に訪問する等して時間をとって支援している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		100%		定期的な懇談会は実施しているが、保護者同士の保護者会等は開催しておらず、特に昨今のコロナ禍においては自粛傾向を強めております。今後ともより良い連携方法を検討していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		相談や申入れがあった際には迅速かつ的確な対応ができる体制を整備しており、利用者様にも周知している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		3か月に一度「プランニング富士しんぶん」という機関紙を発行している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%		利用契約の際に全て書類と共に説明した上で適切に取り扱っている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	83%	17%	各ご家庭に合わせて合理的配慮をしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		100%		今後とも検討していきます。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%		誰でも見れるようマニュアル等を作成・管理しており、年2回の避難訓練を実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83%	17%	年に2回、避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%		事前に情報を伺い、必要に応じて発作対応マニュアル等を作成しながら情報管理に努めている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	83%	17%	契約時に事前にお聞きし、徹底した配慮をしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		随時作成し共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		毎年人権擁護、虐待防止研修を実施し、適切に対応している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		100%	身体拘束を必要とするケースがないので実施していない。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。